

思いを豊かに伝え合い、読みを深める指導方法の研究

- 「文学教材」における交流活動を通して -

三瀬村立三瀬小学校 教諭 廣瀧 由紀子

要 旨

本研究は、学び合いとしての交流を通して、読みを深める指導の在り方を探ったものである。自らの読みを友達と交流しながら見つめ直すことで読みを深めていくことができるように、一人学びの時間と2つの交流活動、そして、振り返りの時間を設定した。児童は、一人学びの時間で書き込んだことを基に二人組の交流(確かめ広げる段階)で、自分の思いを相手に伝え、考えを確かめることができた。全体の交流(見つめ直し深める段階)では、友達の考えと自分の考えを比較しながら聞くことで自分の考えを修正したり、より強固にしたりして読みを深めていくことができた。振り返りの場を設定し自らの学習を振り返らせたことで、児童が自らの読みの変容をとらえることができるようになった。

<キーワード> 交流活動 読みの深まり 発問の工夫 振り返りの時間

1 主題設定の理由

国語はコミュニケーション能力の基盤を成すものであり、あらゆる文化・学問の基盤となるものである。しかし、昨今の言葉の乱れは否めず、文化庁が実施した平成14年度の「国語に関する世論調査」の結果では、「言葉が乱れている」と感じている人は全体の約8割に達している。同調査によると、慣用句の認知率・理解率・使用率も低下の一途をたどるばかりである。平成16年2月に出された文化審議会答申では、国語の重要性や国語力向上の必要性が改めてうたわれている。その中でも学校における国語科教育の在り方として、「情緒力」「論理的思考力」「思考そのものを支えていく語彙力」の育成を重視している。特に読むことについては、「情緒力を身に付けるためには、小学校段階から『読む』ことを重視し、国語科の授業の中で文学作品を中心とした『読む』ことの授業を意図的・継続的に組み立てていくことが大切である」⁽¹⁾とある。

そこで、本研究では、「読むこと」の文学教材に焦点を当て、児童が自分なりの思いをもって読み、曖昧だった自分の読みの根拠を交流活動を通して明らかにすることで、自分の考えを見つめ直し、自らの読みを深める指導の在り方を探求したいと考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

「読むこと」において、互いの思いを伝え合う交流活動を通して、自らの考えを見つめ直すことで、読みの力を高めていく指導の在り方を探る。

3 研究の仮説

「交流活動」において次のような手立てを取れば、一人一人の思いが深まり、想像豊かに読むことができるようになるであろう。

交流活動を二段階にし、二人組みの交流活動で自分の考えを確かめさせた上で、全体の交流活動を行い、自分と友達の読みの違いに気付かせ自分の考えを見つめ直させる。

振り返りの場で自己評価をさせ、自分の読みの変容を実感できるようにさせる。

4 研究の内容と方法

「読むこと」(文学教材)における、読みを深める指導方法の理論研究
 交流活動を取り入れた授業実践例の調査、収集
 振り返り活動を通じた「読むこと」の評価についての理論研究
 仮説検証のための授業実践(第4学年)及びその分析と考察

5 研究の実際

(1) 理論研究 ～読みを深める交流活動の在り方～

読みを深めるとはどういうことか、大西道雄は「文章を読むという営みは、文字を認知してその語としての意味をとらえ、文に表されている判断を把握してその文脈をたどり、文章全体の内容を理解していく、という過程をとる」⁽²⁾と述べている。そして、読みを深めるとは事柄レベルから関係レベル、価値レベルと進んでいくことだと定義付け、「事柄のレベルというのは文章内容を構成する、事柄・素材をとらえる段階、関係レベルとは、書かれている事柄と事柄とのかかわりの中で生ずる意味をつかむ段階、価値レベルというのは、関係の中からとらえられる意味を支えているもの - 書き手の見方や考え方、価値観を把握する段階」⁽²⁾であると説明している。このことを踏まえ、本研究における読みの深まりを、叙述を基に考えを深め、想像しながら豊かに読むことととらえる。文章の叙述に即して読むとは、「丁寧で正確な読み」のことであり、想像しながら豊かに読むとは、「イメージを描きながら心情的な理解や共感ができる読み」のことである。

また、田近洵一は「教室で読むことは、一人で読んでいただけでは見えなかったものを見、気づかなかったものに気づき、考えなかったものを考える、そういう可能性をひらくものでなければならない」⁽³⁾と述べ、展開のポイントを3つ挙げている。読みの焦点化 一人学びとしての一人読みの充実 学び合いとしての読みの交流である。このことから考えを広げたり深めたりするためには、自己内対話はもちろんのこと他者との対話が有効な手立てであると考え、読むことの学習に自己内対話や他者との対話を繰り返し行う交流活動を取り入れた授業展開を図ることとした。他者との交流の中に言葉への新たな気付きや意味の獲得があり、それを踏まえた新たな読みが生まれると考えたからである。

(2) 研究の全体構想 (図1)

ア 一人学びの充実

言葉に着目させ、叙述を基に読ませる手立てとして、交流活動の前に一人学びの時間を設ける。ワークシートへ自分の考えを書かせ、交流する内容をもたせておく。ここでの一人学びの手立てとして、書き込みの視点や学習の方法について説明した学習の手引きを準備する。

イ 二段階に分けての交流活動

交流の場を、二人組の交流活動「考えを確かめ広げる段階」と全体の交流活動

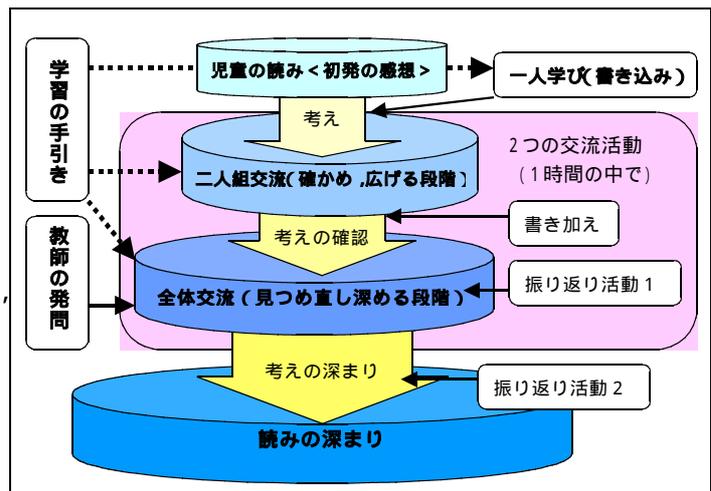


図1 全体構想図

「考えを見つめ直し深める段階」の二段階に分けて設定する。二人組の交流活動では、一人学びでの書き込みを基に、自分の思いを相手に伝え、自分の考えを確認したり、友達の考えを聞き自分と比較したりすることで見方を広げることができると考える。全体の交流活動では、クラス全体の友達と考えを交流する。考えを比較して自分と違う友達の考えを取り入れたり、自分の考えを見つめ直して修正したりしながら、読みを深めさせることができると考える。

ウ 読みの深まりを促す発問の工夫

ここでいう交流活動は、考えを自由に述べ合う話し合いの形態であるが、全体の交流活動では、主に教師が司会の役割を担って進めていく。教師は、児童の発言をつないだり、話し合いを焦点化できるような児童の発言を取り上げたりしながら全体で話し合いを深めていく。

エ 2つの振り返りの場の設定

振り返りの活動は、1時間の学習の最後と単元の最後に2回設定する。1時間の振り返りは、交流の自己評価をし、交流の中での友達の考えのよさを見つめる時間である。だれのどの考えが参考になったのかを意識させることで、交流の有効性に気付かせる。また、単元を通しての振り返りは、初発の感想やワークシートを見直させ、自分の読みの変容に気付かせることをねらいとしている。交流と読みの関連性に気付かせ、交流活動に意味をもたせることが、読みを深める手立てになると考える。

(3) 授業の実際

ア 検証授業 (11月実施)

(ア) 単元 場面を比べて読もう 教材「一つの花」 第4学年(児童数13名)

(イ) 指導計画(全11時間)

- 第一次 全文を読み、学習の見通しをもつ 3時間
- 第二次 場面ごとに登場人物の気持ちを読む 6時間 (検証授業は第4～6時)
- 第三次 関連図書を読む 2時間

(ウ) 二人組の交流活動を通しての考えの変化

表1 二人組の交流記録(第5時)

ゆみこのお父さんは一つの花にどんな思いや願いをこめたのか考えよう

A児 お父さんが戦争に行くからゆみ子を笑顔で見送りたいからかなと思いました。I君はどう思いますか？

B児 「小さくばんざいを…」のところから、ゆみ子を喜ばせたいと思っています。(途中省略)

*めあてから内容が少しずつそれていったので、交流内容の修正を行うように支援した。

B児 「ゆみ、一つだけあげよう…」のところからこれで喜んでくれるかなと思ったと思います。

B児の発言の後、A児の書き込み

「ゆみ さあ一つだけあげよう。一つだけのお花大事にするんだよう…」
赤ペンで書き込み これで喜んでくれるかな？
これでお父さんを思い出してくれるかな

自分の考えを確認させた後、参考になる友達の考えを書き加えさせた。約半数の児童が友達の意見を聞き、自分のワークシートに書き加えを行っていた。友達の意見を聞いて考えに広がりをもてたことが、資料1の児童の振り返り感想から分かる。

A児は、検証授業第5時で、一人学びでの書き込みは2か所しかなかったが、二人組の交流活動後、表1のように更に2か所書き加えをしていた。

資料1 児童の振り返り感想

二人で交流活動をしたときうまく自分の考えを公表できて人の意見もよく聞けてよかったです。人の意見を聞いたりしてとてもためになりました。(C児)

資料2 ワークシート

「一つの花」をあげたお父さんの思いを書こう。

ゆみ子これからもお父さんやお母さんがいなくなっても長生きしてくれよ。早く平和になるように…お父さんのことをこの花だと思ってがんばるんだよ。

↓
[D児の発言より] (A児)

(I) 全体の交流活動を通しての児童の考えの変化

一人学びの書き込みと交流活動後のワークシートの内容で考えの変化を見ると、A児は全体交流時の発言は少なかったが、資料2のように交流活動でのD児の発言を取り入れている様子がうかがえる。

(オ) 振り返りの場における児童の変容

1時間の振り返りで、A児は友達の意見を聞いて「E君の幸せにすごしてほしいのメッセージの話を聞いて、私もそうだなあと感じました」と書いている。また、「みんないろいろ考えているんだな」「意見を交換して、いろんな見方があって、なるほど、あっそうか、そうかもしれないなと思いました」など、交流の有効性に気付いている児童もいた。

(カ) 検証授業 の考察

a 研究の仮説 について

二人組の交流で自分の考えを相手に認めてもらったことで、全体交流への意欲につながることができた。友達の考えを聞くことで考えの広がりが見られ、友達の考えと比較しながら話し合いを進めることで読みの深まりが見られた。しかし、二人組の交流後、ワークシートに書き加えて考えを広げても、全体交流の中での発言ができなかった児童もいた。交流内容や読みの深まりを促す発問、そして交流を深めるための教師の支援の仕方について再検討する必要がある。

b 研究の仮説 について

振り返りをすることで友達の考えのよさに気付くことができた。しかし、自分の読みを振り返るような内容になっていなかったため、自らの読みの変容に気付くことはできなかった。振り返りの視点の見直しが必要である。

イ 検証授業 (2月実施)～11月実施の検証授業の課題を検討し、2度目の検証授業を行った。

(ア) 単元 思いを伝えながら読もう 教材「ごんぎつね」 第4学年(児童数13名)

(イ) 指導計画(全12時間)

- 第1次 全文を読み、学習の見通しと課題をもつ 3時間
- 第2次 場面ごとに主人公の心情を読む 6時間 (検証授業は第7～8時)
- 第3次 学習を振り返り、読書に広げる 3時間

(ウ) 二人組の交流活動を通しての考えの変化

表2 書き加えの児童数

二人組の交流活動では、交流によって考えが広がるようにワークシートの書き込みを基に書き込んだ内容が違う児童同士でペアを組ませた。

検証授業	ワークシートに書き加えをした児童数
第7時	7 / 11名(2名欠席)
第8時	6 / 11名(2名欠席)

表2のように半数以上の児童が二人組の交流の後、友達の考えを書き加

えていた。また、検証授業 では自分の考えを相手に伝えるだけで精一杯だったが、友達の考えを聞いた後に意見のやりとりができるペアも見られるようになってきた。話型にとらわれず、言葉を根拠に自由に自分の考えを述べたり、友達の考えを聞いて考えを広げたりする様子が見られた。

(I) 全体の交流活動を通しての児童の読みの変化

全体の交流活動では、二人組の交流を基に各自の考えを交流させていった。友達の発言を受けて交流ができるように、教師が児童の発言をつなぎながら進めていくよう心掛けた。話し合いを深める手立てとして、最初に発言した児童に問い直して更に発言を求めたり、意図的に指名して発言を促したりしながら交流内容を深めていった。検証授業第7時では、ごんの気持ちや様子を表す言葉に着目させ、交流活動を通してごんの思いを考えさせた。ごんの気持ちを読み取らせるために「兵十のかげぼうしをふみふみ行きました」の部分に着目させ、その場面の様子を想像させながら交流内容を焦点化し、話し合いを進めたところ、表3における抽出児B・Eのような変化が見られた。

表3 全体の交流活動の記録(全体交流より一部抜粋)

児童(A～I)の活動と教師(T)の働きかけ <input type="checkbox"/> は読みを広げる・深める部分	抽出児(B児・E児)の読みの変容
<p>「かげぼうしをふみふみついていったごんの気持ちを考えよう。」</p> <p>T ごんはどのような気持ちで兵十のかげぼうしをふみふみついて行ったのか考えを發表しましょう。</p> <p>T かげぼうしってなんですか？</p> <p>(B児) かげのこと…。</p> <p>T つきの明かりでね…、ふみふみってどういう様子でしょう？</p> <p>(F児) もっと近くで聞きたいのかなと思いました。</p> <p>T ふみふみを言い換えると？</p> <p>(B児) ふみながら。</p> <p>T ということはごんと兵十の距離はどのくらいだろうねえ。</p>	<p>(B児最初の読み) ワークシートの書き込み 「兵十のかげぼうしをふみふみ行きました」なんで、兵十のかげをふんで行っているのかな？</p> <p>(E児最初の読み) ワークシートの書き込み 「兵十のかげぼうしをふみふみ行きました」線を引いただけで書き込みなし</p>

【 児童と教師で「ふみふみ行きました」の部分を実動化 】

T いまの様子からもかなり近くでついてくるのが分かりますね。さっきのYさんと同じ考えの人はいますか？

(E児) 楽しい気持ち。

(D児) ときどきしながらいったのかなと思いました。

T どうしてときどきするの？

わざわざ聞きに行かなくてもいいんじゃないのかな？

(F児) 話の内容が気になる、聞きたかったのではないかな？

(E児) 話は面白いけど、ときどきするような、半分半分の様子

T 二人の話が気になるんだね。兵十と加助のことがね。どうしてでしょう？

(G児) 自分のことが分かるかもしれないし、二人はそんなことを考えているのかつづないのことをどう思っているのか気になる。

(A児) 自分のことだからだと思いました。自分がくりとか持ってきているから…

T いい考えがでてきたね。続けられる人？

(H児) 兵十がどんなにうれしいか…。兵十がくりや松たけをもらってどんなにうれしいかが聞きたかったからだと思います。

(I児) ごんがつづないをしていることに気付いてほしいと思っている。

T どうでしょうか、みなさん。ごんはつづないのことに気付いてほしいと思っていると思いますか？考えを聞かせてください。

(D児) 兵十が神様のだと思っているなら気付かないでもいいと思っている。

(E児) 気付いたら殺されたりするかもしれないから、人間の言葉で言いたいような気持ちがあると思います。

T Eさんどうでしょう？

(C児) もしも気付いたら、兵十と仲良くなれるかなと思っている。

T 仲良くなれるかな。ちょっと違う意見が出てきたね。 仲良く良くなりたいたいと思っているのかな？

(B児) 仲良くなれたらいいなって思って近くに行行って話を聞こうと思ったのかなと思いました。 (発言 ア)

T 友達の考え聞いてどう思いますか？

(D児) 友達がほしいと思ったのかな。

(B児) Dさんと似ていて、お父さんやお母さんがいないから友達がほしい。

(D児) Bさんと同じで遊ぶ相手がほしいとか話をしたい時は話し相手がほしいと思ったのかな？

T Cさんどうでしょう？みんなの考えを聞いて。

(C児) 友達とかいたら毎日どんな気持ちだろうと思っている。

T 他の人で？

(E児) Bさんと似ていて、ごんは最初から一人ぼっちだったけど、いたずらばかりして、兵十のおっかあが死んで、一人ぼっちの仲間になったから仲良くなりたい。 (発言 イ)

～以下省略～

(オ) 振り返りの場における児童の変容

1時間の振り返りでは、交流中であるほど思った友達の意見を書かせ、交流と自分の読みの関連性に気付かせるようにした(資料3)。単元を通しての振り返りでは、今までのワークシートで自分の考えを振り返らせ、自分の読みを客観的に見ることで資料4の感想にあるように読みの変容をとらえさせることができた。

(カ) 検証授業 の考察

a 研究の仮説 について

二人組の交流を取り入れ、自分の考えを相手に伝えたことで自信をもって発表できた。読みの変容を見ると、B児はC児の発言の後、C児の考えを受けて発言をしている。1時間の振り返りの感想に「ぼくはCさんの考えで思い付いたから、やっぱりすごいなあと思いました」と書いている。このことから、友達の考えを生かし、考えを深めていることが分かる。全体交流での発言の内容を自分のワークシート「ごんの日記」に取り入れた数は表4

(B児 二人組の交流活動後の書き加え)
・ひまだからぶらぶらでかけたんだな。
・二人は何を話しているのかな。
・ごんは引き合わないならもうやらなくていいんじゃないかな。
(E児 二人組の交流活動後の書き加え)
兵十のかけぼうしをふみふみ行きました
再び線を赤ペンで引く

(B児 全体の交流活動での変化)
(発言 ア)は、(C児)の考えを聞いた後のものである。発言内容からC児の発言を受けて、考えを深めている様子が分かる。その後もD児の発言を聞いて、考えを広げながら発言することができた。
(E児 全体の交流活動での変化)
E児は最初は、楽しい気持ちでついて行ったと発言していたが、だんだん考えが変化してきた。(発言 イ)はB児の発言から、考えを深めたものである。更に前時の交流で出てきた意見を思い出し、ごんの思いを想像しながら考えを深めることができた。

B児最後の読み・ワークシート
ぼくがくりや松たけを持ってきてやるのに、なんでぼくには気付かないで神様じゃ、ぼくはもうやめようかな。でもうなぎをとらなかつたらこんなことがなかったのにな。あんなことやらなきゃよかった。
E児最後の読み・ワークシート
兵十と加助はなんでおれがやると気付かないんだろう。今までかけぼうしをふみふみ行った意味がないじゃないか。気付いてくれ。おれがくりや松たけを持って行ったんだ。でも、まだつづないはず。

資料3 B児の感想

ぼくの考えと友達の考えがちがって、いい勉強になった。

資料4 C児の振り返りの感想

最初は、ごんのいたずらする気持ちくらいしか考えていなかったけど、最後らへんはごんの寂しい気持ち、後悔する気持ちを考えて、いろいろな考えを発表できてよかったです。

表4 読みの変容

検証授業	全体交流での発言内容をワークシートに取り入れた数
第6時	8 / 11名(2名欠席)
第7時	7 / 11名(2名欠席)

のようになった。

b 研究の仮説 について

1時間ごとの振り返りでは、交流内容を振り返ることで誰のどんな考えが読みの手助けになったかということ意識することができ、自分の学習を振り返る自己評価にも役立った。単元を通しての振り返りでは、自分の読みの変容に気付くことができるようになっている。

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

- ア ワークシートや学習の手引きの活用により、交流活動において根拠をもって発言することができ、叙述に即した丁寧な読みができるようになってきた。
- イ 2つの交流活動で、児童は自分と考えの違いに気を付けながら友達の考えを聞くことで、自分の考えを見つめ直し、新たな言葉の気付きや意味の獲得ができるようになった。全体で話し合い、友達の考えを取り入れることで想像を広げ、読みを深めていくことができた。
- ウ 振り返りの場を設定し、交流内容と自分の読みの振り返りで交流活動の有効性に気付くことができ、交流への意欲的な参加を促すことができた。単元を通しての振り返りでは、自らの読みの変容に気付くことができ、読みの深まりを促すことにつながったと言える。
- エ 教師が発問を工夫し、発話に気を付けることで交流活動を活性化できるようになってきた。全体交流における教師の発話状況を表5のような発話類型にまとめることができた。交流の内容や状況によって教師が発話を工夫していくことで、交流活動を活性化させたり、交流内容を深めさせたりすることができる。

表5 交流における教師の発話類型

目的	発話類型	種類	発話例
認める	受容型	児童の発言に相づちで応える	うん、それで。ふーん。うん、うん。
		児童の発言を肯定的に受容する	ああ、そうなのか。へえ、そうなんだ。はぁ～なるほど
確かめる	くり返し型	児童の発言の一部をくり返して言う	～だと思ったんだね。～なんだね。～だねえ。
	いい換え型	児童の発言を別の言い方で言う	ということは～と言うことですね。言い換えると～ね。
	補足型	児童の発言に足りない部分を加えて言う	さんが言ったのは～ということですね。
広げる	促し型	他の児童の発言を促す(同意見で広げる)	他に。同じ考えの人？ 考えが似ている人？ 続けられる人？ みなさんどうでしょう？
	促し(比較)型	比較して違う考えの発言を促す	違う考えの人はいますか？ 他にちょっと違う人？
深める	継続型	児童が続けて話すことを促す	もう少し詳しく話してください。さんどうかな？
	発問型	児童の考えをまとめながら発問をする	ちょっと違う考えだね。それは～ということですか？
	投げ掛け型	ある児童に意図的に発言を投げ掛ける	さん～のところについて考えを言ってください。

(2) 今後の課題

- ア 読みを深めるための交流内容の検討と教師の発問、発話研究
- イ 一人一人の読みの深まり状況をより明確に把握するための評価の工夫
- ウ 交流活動をより活性化させるための自己表現力の育成

《引用文献》

- (1) 文化審議会答申 「これからの時代にもとめられる国語力について」 平成16年 p.15
- (2) 大西 道雄 『学習の手引きによる国語科授業の改善』 1987年 明治図書 p.38
- (3) 田近 洵一編 『文学の授業』 1996年 国土社 p.22

《参考文献》

- ・ 田近 洵一著 『想像の 読み』 1996年 東洋館出版社